

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2015年3月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第6回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門:2016.5.21(土)~6.5(日) ピアノ部門:2016.6.11(土)~6.26(日)

第6回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門課題曲の楽しみ方

解説:青澤 隆明(音楽評論)



ピアノのレパートリーは、他のどの楽器にも増して多彩で豊富なものだ。だからこそ、多くを求められるなかでも、ピアニストは自分の領域をゆっくりと着実に耕していかなくてはならない。

そこには手に余るほどの財宝がある。しかし、すべてを手に入れることは、よほどの技巧的な超人性、あるいは自我の希薄さがなければ難しいだろう。仙台国際音楽コンクールがじっくりと見極めようとするのはだから、あらゆる演奏者にとって基礎となるべき、古典へのアプローチである。まず、音楽の骨格と土台、こう言ってよければ足腰の丈夫さ、そして頭脳の明晰さと適正な構築性をはっきりと評価しようというのがその第一の特徴だ。

息長く、一生の時間をかけて、作品理解を深め、自分を厳しく律していく。音楽に取り組む真摯な姿勢、着実な解釈と技術をしかと掲げ、若きコンテスタントにとって、そして私たち聴衆にとっても、もっとも要諦となるべきところはその簡潔なまでの厳しさである。これみよがしの自己表出や、運動神経の高さだけで、向き合える作品世界ではない。それは、長らく演奏と教育の現場に携わる名匠たちが身をもって痛感してきた真実なのだろう。審査委員長を長らく務める野島稔と副委員長の植田克己の各氏をはじめ、本コンクールが全体を通じて示す、音楽への献身が課題曲の選曲に表れている。各地から招かれた名演奏家にして名教師である11人のうち、6人が新たに審査に向かう第6回にあっても、こうした基本姿勢はさらにその芯を強めている。

端的にみて、モーツァルトとベートーヴェンが、本コンクールを大きく支配することになる。記録媒体での予備審査からファイナルまで、このふたりの作品を弾くだけでもステージを進み得る設定なのだから。予備審査で、技術面のチェックを含めて、ショパンのエチュードが必須であることを除けば。

その予備審査でもまず、ウィーン古典派と称されるハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタを1作、通して弾くことが求められる。次いで、ハーフ・リサイタルのプログラムで独奏の達成度をみる予選では、そこにバッハ、ロマン派時代からシューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、ブラームスを加えたなかから10分以上の曲をひとつ選ぶことが条件とされる。これは前2回からの安定した方針である。

大きく異なるのはセミファイナルからで、近代の作品を課題とした第3回と異なり、第4回からモーツァルトとベートーヴェンに集中した。モーツァルトのK466、K467、K482、K491、K503、K595の6曲ないしベートーヴェンの第1番から第3番の3曲からの選択としたのが第4回、ベートーヴェンの第3番をファイナルの選択へおくれたのが前回の第5回だ。今回はベートーヴェンの第3番か第4番を選択し、モーツァルトは前回までから少しだけ遡ってK450からK459までの5作のうち1曲をファイナルで演奏することが決められた。

さらに、ファイナルでは贅沢なことに、ベートーヴェンの第5番以降、ショパン、リスト、シューマン、ブラームス、チャイコフスキー、ラフマニノフ、ラヴェル、バルトーク、プロコフィエフのうち1曲を選択し、モーツァルトと合わせて2曲がステージに乗せられることになった。オーケストラとの共演が少ない若きコンテスタントにとって、大きく様式の異なる2曲を聴衆の前で演奏できることはいかほどの経験になるはずだ。さらに、これまでは2曲を準備したうちの1曲が抽選で選ばれる仕組みだったのが、今回はモーツァルトでの理解と音楽性に加えて、自分の個性に相応しいヴィルトゥオーゼティを存分に発揮できる協奏曲を選べる。2つの視点から、実力と持ち味を披露することが可能だ。両面から素質と能力を判断され、仙台フィルとの貴重な実演の機会を得られるのは出場者にとって魅力だろう。

セミファイナルの選択肢は、ベートーヴェンの性格の異なる2曲で、1803年完成の第3番ハ短調op.37と06年完成の第4番ト長調op.58で、どちらも作曲者自身の独奏で初演された。ベートーヴェンはまず第3番で、モーツァルトから先達の協奏曲モデルから大きく踏み込み、ピアノ独奏に19世紀的ヴィルトゥオーゾの輝かしい技巧性を籠めながら、動機労作など作曲技法を発展させて、ピアノとオーケストラを有機的に結びつけた。ラルゴではピアノを和声的にオーケストラが支え、終楽章ではロンドが力強く躍動する。



■お問い合わせ先/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/

第6回仙台国際音楽コンクールニュースレター

交響曲第5番とともに初演された第4番は、ピアノ独奏による曲の開始からして顕著なように、まったく新しい協奏曲のかたちをとっている。カデンツァも即興ではなく、譜面に示されている。曲の性格としては抒情的な趣が顕著だが、対位法書法の精妙さも魅力である。ハ短調とト長調の2作は対照的だから、その選択からもコンテストの適性や志向が明瞭になることだろう。

ファイナルの2曲目の選択は、一般的な演奏会レパートリーとみられるもので、手の内に入れている十八番を即戦力として披露すればいいが、モーツァルトはそうはいかない。第4回と第5回は、1785年の二短調K466とハ長調K467以降、91年に完成された最後の協奏曲変口長調K595までと、比較的演奏会で採り上げられる頻度も高い作品からの選択だった。今回はそれ以前、モーツァルトのウィーンでのコンサート活動が頂点に達した1784年に作曲された6曲のうち、最初を除く5曲が課題曲に設定されている。K450からの3曲を自身が「大協奏曲」と呼んで前作K499と区別したが、そうして規模も技巧も充実したモーツァルトの精髓にどれだけ迫れるかが注目される。ちなみに、変口 (K450)、二 (K451)、

変口 (K453)、ト (K456)、へ (K459) と、いずれの曲も長調をとる。

選択範囲の広い2曲目には、ベートーヴェンの第5番、この協奏曲が作曲された1809年からほどなく生まれたショパン、リスト、シューマンの協奏曲、さらにブラームス、チャイコフスキーときて、ラフマニノフの第2番で世紀をまたぎ、第一次世界大戦後までの名作が含まれる。戦前からのプロコフィエフの第1番と第2番をはじめ、ラヴェル、バルトークの第3番といった晩年作が1931年の完成、ラフマニノフのパガニーニの主題による変奏曲が34年の完成だから、ベートーヴェンの最後のピアノ協奏曲から125年、モーツァルトからは150年にわたる、激動の西欧とロシア、アメリカが生んだ歴史的名作が視野に入ってくる。モーツァルトとの組み合わせだけに、持ち前の技巧を十全に発揮できる作品が奏者の適性に応じて選ばれることになるだろう。通常のコンサートではなかなか聴くことのできない2つの協奏曲のコンビネーションが、ファイナリスト6人のパノラマによって広がることになる。聴き応えあるファイナル・ステージとなることを期待したい。



第6回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門審査委員

審査委員長

野島 稔(日本)

審査副委員長

植田 克己(日本)、 エリソ・ヴィルサラゼ(ロシア)

審査委員

アンドレア・ボナッタ(イタリア)

エヴァ・ポブウォツカ(ポーランド)

ダン・タイソン(ヴェトナム)

マッティ・レカッリオ(フィンランド)

リチャード・ダイヤー(アメリカ)

ブルーノ・リグット(フランス)

リュウ・シコン(中国)

ミハエル・シェーファー(ドイツ)

※第6回コンクール詳細は公式サイトをご覧ください。 www.simc.jp/

第6回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門課題曲

予選

2016年6月11日(土)～6月13日(月)
[独奏]

任意の独奏曲で、35分以上かつ40分を超えない演奏時間のリサイタルプログラムを構成し、演奏する。ただし、下記の作曲家の作品から1曲以上、かつ、10分以上の演奏を含めなければならない。

J.S.バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、ブラームス

- ・曲数、各曲の長さについては特に指定しない。ただし、ピアノ・ソナタを選んだ場合には全楽章を演奏すること。
- ・特殊奏法(内部奏法、プリペアドピアノ、トーンクラスターなど)を含む作品は選択の対象外とする。

セミファイナル

2016年6月17日(金)～6月19日(日)
[オーケストラとの共演]

次の曲目から1曲を選択し、演奏する。

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 op.37

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 op.58

ファイナル

2016年6月23日(木)～6月25日(土)
[オーケストラとの共演]

次の①②の両方を演奏する。

①次の曲目から1曲を選択すること(バーレンライター版を使用すること)。

モーツァルト:ピアノ協奏曲 変口長調 K450

モーツァルト:ピアノ協奏曲 二長調 K451

モーツァルト:ピアノ協奏曲 ト長調 K453

モーツァルト:ピアノ協奏曲 ト長調 K453

モーツァルト:ピアノ協奏曲 変口長調 K456

モーツァルト:ピアノ協奏曲 へ長調 K459

②次の曲目から1曲を選択すること。

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」

ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11

ショパン:ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 op.21

リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S124

リスト:ピアノ協奏曲 第2番 イ長調 S125

シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 op.54

ブラームス:ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15

ブラームス:ピアノ協奏曲 第2番 変口長調 op.83

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 op.23

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30

ラフマニノフ:パガニーニの主題による狂詩曲 op.43

ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト調

バルトーク:ピアノ協奏曲 第3番 Sz119

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 op.16

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 op.26